

第2期養老町国土強靱化地域計画(案)への意見について

パブリックコメントの結果について

令和8年2月3日から令和8年3月3日まで、町の窓口、HP等で「第2期養老町国土強靱化地域計画(案)」のパブリックコメントを行いました。

パブリックコメントでいただいた質問・意見及び町としての考え方(回答・対応)は、以下のとおりです。

No.	質問・意見	回答・対応
1	<p>はじめに、本件について、養老町と岐阜県が連携しなければ具現化できないこととして、双方に本意見書を提出することをお許し願いたい。</p> <p>まず、岐阜県立養老女子商業高等学校（*以下本校と称す）は平成17年4月（2005年）に閉校して以来、跡地利用の問題について、継続事項として校舎が残されている。昨年（2025年）6月から7月にかけて、養老町で行われた「ようろう未来会議」において、当事者である現・岐阜県立大垣養老高等学校生徒会メンバー等4名（男子2名・女子2名）と真剣に話し合ったことも加味する。</p> <p>岐阜県立養老女子商業高等学校跡地利用について</p> <p>1. 大規模災害時にも機能不全に陥らない施設としての活用</p> <p>本校のある立地として、野球場、総合体育館、サッカー等、スポーツ施設（バレー、バスケットボール、ハンドボール、陸上、野球、ソフトボール、サッカー、剣道・・・）が充実している。実際、大垣養老高等学校においても、部活の練習会場として、本校の体育館が利用されている。（交通手段としてスクールバスを利用。）スポーツ拠点として、校舎を合宿所としてリノベーションし、普段から施設を活用することで、災害時には、避難所としての役割を即座に果たすことができる。そのためには、運動場では、災害ヘリコ</p>	<p>大垣養老高校養老校舎は養老町の指定避難所となっており、大規模災害時には施設を利用させていただけることとなっております。その他の利用方法については、大垣養老高校及び岐阜県と協議してまいります。</p>

ブターが着陸できる整備されることが望まれる。

2. 雇用創出として合宿所ホテル経営

ホテル経営のプロと大垣養老高校の卒業生たちとのコラボ

防災拠点を意識した合宿所経営することによる雇用創出

大垣養老高等学校の在校生卒業生の中には、養老で仕事がしたくとも、職種に偏りがあり、希望専門職種がない。製造業ばかりで魅力を見出せない。主婦になっても、シルバーになっても、暇にしている人も幸せなまち、お年寄りが幸せだと思えるようなまちであってほしいという率直な意見には心を打たれる。雇用創出できるまちづくりが基盤としてあれば、毎年百人以上卒業していく高校生たちの定住の地として養老町が選ばれるようになる可能性がある。

3. スタートアップのまち養老

「場」として本校（合宿所）を利用する養老町では、人もいるし場所もあるからこそこのスタートアップの拠点とすることができるのではないか。

工業団地をつくり誘致をすることも考えられるが、養老町独自の取組みと両輪としなければまちの魅力が薄いでしまう。スタートアップメンバーの資金作りとしての合宿所でのアルバイトやマーケティングも可能とすれば、活気ある場所を提供できる。

最後に、本校を中心として、スポーツをメインとした〈養老中央公園〉として全体を整備する。公園を整備することで、東京都立川市にある*昭和記念公園が箱根駅伝予選会場として利用されているようなコースをつくり利用可能な競技や大会回数を増やすことも集客のため念頭に置きたい。

	<p>合宿所のハード面、建物は今ある建物等のできる限り取捨選択しコンパクト化し活用、建築家デザインで洒落ていて注目されること。</p> <p>ソフト面では、日本一と言われるくらい掃除が行届きピカピカで、にこやかな笑顔が素敵な接客。食事や風呂は、民間と連携することで、余計な費用を掛けずに、合宿所がまちの中にとけこむこと。</p> <p>本校が、現状から脱却して、かつての岐阜県立養老女子商業高等学校が、地域の皆さんに愛されていたように跡地が活用され、再び地域の皆さんに愛される「場」となるよう心から願う。閉校して、もうすぐ四半世紀という時間経過にも留意したい。</p>	
2	<p>計画策定に際して想定するリスクとして、第一に地震（直下型地震）が説明されています。</p> <p>またアンケート結果でも地震の懸念が多い結果となっており、道路ネットワークが重要と記載されていますが、方針・対策として、橋梁の老朽化対策しかなく、耐震補強が全く考えられていませんが、被災想定が不足していると思います。</p> <p>老朽化対策をしても、建設時（昔の基準）の性能しかありません。町が管理する橋梁は574橋で、建設時期不明橋が9割、建設時が判明している橋梁でも、阪神淡路大震災後に見直された道路橋示方書（H8道示）以降に設計・建設されたと思われるものは10橋程度。残りの約560橋で桁橋（函渠以外）は、理論的に全滅することが想定される。その中には、鉄道や県道路を跨いでいる橋梁もあり落橋すると大きな第三者被害が発生し、長期にわたり双方交通が遮断されることが想定されます。新しい道路を整備して、国道や県道等の幹線道路だけ耐震化が進みますが、生活道路は落橋しても問題がないという認識ですか。落橋することで、孤立集落が発生し、避難所までのアクセス道路として利用できなくなります。地域外から受援に来ていただくた</p>	<p>養老町が管理する橋梁の現状については、ご指摘のとおりであり、国の交付金等を活用し、定期的な点検と不具合箇所への修繕に取り組んでいるところでございます。</p> <p>現在、国においては「第1次国土強靱化実施中期計画」が、2025年6月6日に閣議決定され、2026年度から5年間を計画期間として事業展開される予定となっております。当該計画では、災害対応の生命線となる緊急輸送道路上の橋梁については、老朽化対策だけでなく、地震に耐えられるよう耐震化も図っていくとのことです。</p> <p>今後は町が管理する橋梁の維持管理についても、当該計画に沿って進めていくこととなりますが、町が管理する橋梁においては、緊急輸送道路にかかるものがないことから耐震化の対象とならないため、まずは、鋭意老朽化対策を進めてまいります。</p> <p>盛土のり面については、養老町では岐阜県において国のガイドラインに基づいた大規模盛土造成地の抽出（第一次スクリーニング）により5箇所の大規模盛土造成地が抽出されました。抽出された大規模盛土造成地に5箇所に対して、令和7年度に岐阜県の基準に基づき、盛土の分類調査（優先度再評価）を行ったところ、危険要因がな</p>

<p>めにも重要だと思えます。計画的な橋梁の耐震補強をする必要があると思えますが如何か。</p> <p>地下水が高く沖積層の地質だと地震により液状化リスクが高いと思えますが、特に盛土のり面の崩壊リスク高いと思えますがのり面对策についての被害想定は検討する必要があると思いが如何か。</p>	<p>く、当面对応不要の結果となっております。</p>
--	-----------------------------